

レバノンにおける「キャンプ戦争」は、パレスチナ勢力のマグドゥシェ占拠によって、全面的戦争の危機となり、中東における反帝・反シオニズム戦線の混乱を拡大させている。また、先月に続いて、米・英を中心とする帝国主義諸国に対する「反テロ」キャンペーンはいつそ強化され、反帝・反シオニズム戦線に困難を強いている。

政治的には、一月下旬のICO（イスラム諸国機構）サミットが予定さ

れている。エジプトのムバラクに対する公式招請がお膳立てされる一方、ICOからのイラン追放策動があるなど、アラブ反動諸国の側は、反帝・反シオニズム戦線の混乱に乗じ、右からの再編を策している。

### — レバノン「キャンプ戦争」の拡大 —

レバノン独立記念日（一一月二二日）から二日後の二四日、アイネ・ヘルワ・キャンプのパレスチナ勢力は、

対パレスチナ勢力の戦闘に中立を保

は、同キャンプを見おろす戦略要所であるマグドゥシェ村への突撃をかけ、アマルから戦略要所を奪った。

これは、パレスチナ勢力が、キャンプの防衛という防衛戦から、反撃に転じたことを意味する。そして、「キャンプ戦争」は、新たな段階に入つたのである。この戦闘だけで、一四〇名からの死者が出たとされる激戦であった。この反撃で、パレスチナ勢力の部隊がほとんどない状態になつた。キャンプ防衛というレベルから、全面對決へと発展しかねない危険な状況になつたのである。

こうした戦闘拡大に対し、アマル

## 「キャンプ戦争」とアラブ反動の策動

一九八六年一二月一〇日

月刊  
中東レポート

第19号

発行 ウニタ書舗  
東京都千代田区神田神保町1-52  
TEL. (03) 291-5533  
編集 J. R. A.  
郵便振替 東京1-48443  
三菱銀行神保町支店 当座9012656  
会員制 年会費20000円

### 目次

「キャンプ戦争」とアラブ反動の策動	1
PFLP議長ハバシとファタハ中央委員アブ・ジハド会談について	
(資料①)	6
シーダーの守護党リーダーのインタビュー(資料②)	10
LF執行委員会副議長パクラドゥニのインタビュー(資料③)	13
GCC(湾岸協力機構)第5回サミット声明(資料④)	16
駐米イラク大使の米政策批判(資料⑤)	17
(資料⑥)	19
日本赤軍声明(資料⑦)	19
激動の中東下キュメント(1986年11月10日～12月8日)	20
編集後記	28

ノを食して「パレスチナをレバノンから追い出そうとしている」といふものである。アラファト派は、実力でレバノンに基盤を再建せんとしており、パレスチナ・キャンプにおいて最大の影響力を誇る分、「キャンプ・ノープ戦争」を再び拡大する危険性を秘めているのである。

今回のマグドゥンエ奪取は、アラファト派が独自に行つたものではない。派閥を問わず、キャンプ・人民派、「防衛」という目的のために、共同が成立したのである。反アラファト派も、反アマル、反シリアの気分を共有しており、パレスチナ、レバノン、シリアがこの二年間に及ぶ「キャンプ・戦争」のしこりをこえて、反帝・反シオニズムの闘いと共に、もう一度、闘っていく道は遠い。が、結局は、その道によつてしか、解決されえないのである。

アラファト派は、PLO再統一に向か、PNSFの中のPFLPとの交渉をプラハで行つていた。PLO分裂の根柢としてある八五年二月のアンマン合意をあいまいにしたまま再統一へ向かおうとしたので、PFLP側は、反発している（資料参照）。アラファト派としては、「キャンプ・戦争」を拡大しているパレス

シリアルとP.N.S.Fをひき離して、アラファート派の政治的地位を高めようとしているのである。また、他の勢力をも、レバノンにおけるP.L.O.の軍事力量再建にひきずり込み、それをもって、将来展望されるパレスチナ問題解決国際会議、または、イスラエルとの交渉における発言権を確保しようとしている。しかし、レバノンは八二年以前にもどることはないだろう。レバノン主体が育つてきただからである。このレバノン主体との共同による反シオニスト闘争の強化によってしか、パレスチナ勢力のレバノンでの軍事存在の確保はありえない。また、これを中東レベルでみれば、シリアとの反帝・反シオニズムでの共同ぬきにはありえないことである。

シオニスト・イスラエルは、この「キャンプ戦争」において、一一度で六度も南部レバノンのパレスチナ拠点を砲爆撃した。アマルとイスラエルの「共同」をパレスチナ側に否が応でも印象づけ、戦闘激化を狙ったものである。こうして、パレスチナ勢力とアマルが衝突すればするほど、イスラエル北部国境は「安定するのである。イスラエル内では、

「キャンプ戦争」でアマルにかかることを明言しないまでも、アマルによる南部支配を望んでいる部分もあるとされる。それ以上に、現在のような戦闘状況が最も好ましいことは、明確である。事実、この六度にわたるレバノン砲爆撃は、レバノン領侵略行為なのだが、これに注目するものもない。「キャンプ戦争」に釘づけなのである。前述のごく唯一ハジビッラーが、イスラエルとその手先SLAに対して闘い続けてきたのである。

「キャンプ戦争」でかけにかくれてしまつた形のレバノン問題自身はどういうに発展しただろうか？ レバノンの進路をめぐる論争が、「対話委員会」でシリアル・レバノン関係規定問題として争われて以降、イスラム、民族派閥僚が閣議ボイコットを続けてきた。レバノン通貨が三〇%も値下りしたのに、ジェマイエールは何も手を打たず、和解の道はいつこうに進まぬばかりか、経済が破産してしまっている。

こうした混乱に乗じて、キリスト教右翼は、政府にとつてかわる機能を自派区いでつち上げた。つまり、LF（レバニーズ・フォーシーズ）の執行委員会を司令部評議会に改組し

をもち、ますます独立したキリスト教徒カントン化の方向へ進めているのである。これまでの軍事的・政治指導部的役割から、経済統制、教育、外交、福祉等、統轄領域を拡大し、キリスト教区の全生活分野を網羅するものへ転換させている。この評議会の顔ぶれは、議長のサミール・ジヤジャを始め、L.F.執行委員会全員が勢ぞろいしており、ファランジ党が四六%も議席を独占している。

「キャンプ戦争」については、奴らは、『これは、パレスチナ人とレバノン人の戦闘である』と宣伝し、パレスチナ人を追い出そうとする自らの意図を正当化している。「キャンプ戦争」の激化は、奴らには好機であり、民族派・進歩派が釘づけになつている間に、独自化を急いでいるのである。一説によれば、アラブ派の部隊を送りこんでいるのは、実は、キリスト教徒右翼だとも言われている。奴らが、この対立をいかに望んでいるかを如実に示すものではないだろうか？

つてきたP.S.Pのジュンブーラットも次のような警告を発せざるをえなくなつた。

「もし戦闘が拡大すれば、我々はパレスチナ勢力に対し、アマルの側に立つて闘う」と。

戦闘自身は、二六日には、ペイルート郊外のボルジ・バラージネに飛火した。アマルが砲撃し、パレスチナ側もドルーズ山岳部に敷いた砲陣地から、パレスチナ・キャンプ周辺のシーア派の居住区への砲撃をかけた。

シオニストは、再び、空爆によつてこの戦闘に介入してきた。サイダ近郊のアイネ・ヘルワ、ミーエ・ミー工の両キャンプを爆撃したのである。パレスチナ勢力とアマルの対立をあおる方向へ、介入を続けてゐる諸国が再び調停に動き出した。二五日には、リビアからジャレード少佐がダマスカス入りし、シリア首脳との調停協議を始めた。

P.N.S.Fは、ジュンブルットの警告の数時間後、「P.L.A（人民解放軍）」とレバノン左派民兵組織」とレバノン民族諸勢力にひき渡すという条件でなら、マグドウシエから撤退するとの調停協議を始めた。

「用意あり」とする声明を発表している。

みならず、シリアー・レバノン首脳の和解工作も行おうとしたとされる。ソ連は、駐ベイルート大使館を通じて独自に「キャンプ戦争」の当事者とコンタクトし、停戦の努力を行つた。そして、一二月七日、イラン提案による停戦合意に至つた。主要にはパレスチナ勢力のマグドウシェ撤退アマルによるラシャティエ・キャンプ封鎖解除は二七日の停戦案とかわらない。が、緩衝軍として、P.L.A.民兵のかわりに、ハジビッラー軍が入ること、停戦会議の継続、シリア・リビア、イラン三国による停戦継続保障が、新たにもりこまれた点が新しい要素である。

ハジビッラー（「神の党」とされる）は、「キャンプ戦争」に反対しており、レバノン・パレスチナ勢力との共同の対イスラエル戦を解決方向とすべきという立場に立つていた。実際に、「キャンプ戦争」に反対していただけでなく、「キャンプ戦争」の最中に、南部レバノンで、シオニスト軍とその手先のS.L.A.に対しても闘い続けた唯一の勢力でもあつた。言うまでもなく、ハジビッラーは、イランと同一の立場に立つている。

一二月一〇日、まず、マグドウシェの五つの前線からパレスチナ勢力

が撤退し、イラン政府代表の立ち会いの下に、ハジビッラーにひき渡された。そして、その後に、レバノン赤十字、国際赤十字の救急車および非常物資輸送車が、ラシャディエ・キャンプ・ペイリートのほうでは、この日も、散発的な銃撃戦が続いていた。

P N S F は、この合意の第三段階めは、ラシャディエ・キャンプ、ベイルート近郊のキャンプの封鎖解除、そして、双方の捕虜交換、戦闘の間家を離れていた人々の帰還、あると説明している。

また、ファタハ反乱派のアブ・ムサによる最終調印は、パレスチナ勢力、アマル、レバノン民族派諸勢力が、レバノン人―パレスチナ人の将来の関係を協議することであるとのことである。これは、一つの意見ではあるが、その意味では、パレスチナ人、およびパレスチナ・キャンプの地位を一定規定したダマスカス合意を再検討してほしいという要求に等しい。

アラファト派は、この合意には参加していない。話し合いすら拒否する立場を表明し、バグダッドから、シリアルおよびアマル非難をくり返している。つまり、「シリアルは、アマ

ハドからイランのハメネイ大統領に對して、原油価格一バレル＝一八ドルの確保のための共同を呼びかけたことである。第三は、一一月中旬にアンマンで「西岸開発五カ年計画」国際会議が開かれたことである。

国際的には、レーガン政権の伊朗への武器売却問題が大きく報道され、中東ではレバノンでの「キヤンブ戦争」が連日報道されたこの一一月から一二月にかけての中東諸国上記の一連の動きは、中東の政治の動向の底流をなしている。

ICOへのエジプトの出席は、單にアラブ世界へのエジプトの復帰というだけではない。それは、キャンプ・デービッド路線のなし崩し的承認であり、エジプト＝ヨルダン、エジプト－サウジアラビア、エジプト－イラクと個別の共同が進行してきたこれまでと違つて、ヨルダン、サウジアラビア、イラクとエジプトのアラブ反動潮流の公然たる形成を意味する。キャンプ・デービッド路線のなし崩し的承認とは、イスラエルの存在、つまり帝国主義の中東における戦後処理を受け入れ承認することを意味する。この決定的転換は、実は八二年イスラエルのレバノン侵略戦争、PLOのベイルート撤退以

降、アラファートがシリアとの共同でなく、カイロ訪問を選ぶことによつて先鞭をつけたものであつた。それでゆえ、アラブ反動のエジプトの復讐の受け入れは、PLO内において、イスラエルのなし崩し的承認の傾向を強めるだろう。また、逆にそれは拒否する側との非妥協な分裂を大きくするということもある。エジプトの復帰はまた、反帝国家としてのシリアとリビアの孤立化の企みでもある。イスラエルがエジプトの復帰を歓迎している点はまさにその点にあるとさえいえる。

第二の大きな動きとしてのサウジのイランへの働きかけは、イランへの武器売却問題と符合するかのように大きな変化となっている。ヤマニ石油相が辞任して以降初めてのOPEC総会にむけてのサウジとイランの共同の方向は、OPEC諸国の中にもはかつてきだ。サウジは一貫して、イランを敵視し、その弱体化を経済的にも政治的にも軍事的にもはかつてきだ。イラン・イラク戦争は、イランに対する米帝・サウジ、イラクの戦争ともいえた。しかし、戦争の持続と拡大、原油価格の下落の中で、サウジはイランを一定ひきこみつつ、盟主的存在を固めて

四 中東和平の行方

自國利益を実現するという道を選び始めたのである。そこには、米帝の意向も反映している。とくに石油資本の意向が。

第三の「西岸開発五カ年計画」国際会議は、西岸、ガザにおけるヨルダンとイスラエルの「共同統治」の強化に向けたヨルダン側からの国際キャンペーンである。被占領地パレスチナ人の経済活動、生活基盤をヨルダンとイスラエルの国家経済に完全に組みこむことによって、その民族的権利を奪い、PLOの存在基盤そのものを解体しようとしている。单独交渉か否かでなく、すでになし崩し的に、共同統治が進められている。それこそが、パレスチナ人にとっては危険なことである。それは、レーガン、ペレスのいう、マーシャルプランと符合し、レーガン案を実現していくものとなっている。その分、被占領地の闘いも激化している

いると言われている。

アラファート派は、八五年二月のアンマン合意をヨルダン国王との間に作ったが、それは次の目的を達成することをめざしたものだった。つまり、米帝にPLOを承認させ、それをてこに、イスラエルとの交渉に臨むこと。ところが、米帝もイスラエルも妥協せず、ヨルダン国王も国連決議二四二、三三八の承認をPLOに要求した。なおかつ、アラファート派内での統一も作れなかつた。このアンマン合意（ヨルダン—PLOによる合同代表権）は、八六年二月一日、フセイン国王から一方的に破棄された。しかし、アラファート派は未だに、同合意破棄を明確に宣言しないばかりか、反帝・反シオニズムの立場に立つシリアにも敵対していく。

ヨルダン反動のほうは、アンマン合意の挫折後、より明確に、「西岸への責任を果たす」として、ヨルダンへの統合策動を開始してきた。

エジプトのムバラク政権は、アラファート派とヨルダンとの関係改善に尽力している。それは、米帝主導の「中東和平」への道（キャンプ・デービッドというイスラエル—アラブ統合支配戦略）にヨルダン、PLO

最重要課題たる経済再編、被占領地支配政策が未だ固まっていない。シャミル政策の基本は、ヨルダンとの直接交渉方向の継承、かつ、リクエード・ブロック政策の特徴としてある西岸、ガザ、ゴランへの入植村増強にある。

新しい外交展開としては、イスラエル大統領がアジア・太平洋諸国歴訪を行い、関係強化しようとした。しかし、東南アジアのイスラムの反発を生み、マレーシア、インドネシアで大規模な反対デモがおこった。全体として、失敗に終わったとみて良いであろう。が、ジンガボール、スリランカ等、イスラエルとの関係強化を望む国との関係は、進めたようではある。

一二月九日、シャミルは、ヨルダン国王あて親書を送り、イスラエルとの直接交渉をよびかけたとのことである。また、ある政府筋によると、イスラエルとヨルダンは、西岸の「諸条件改善」にむけ、さらに PLO の影響力を弱めるために、暗黙の共同を行っていると、非公式に語つてもいる。事実、ヨルダンは、「西岸開発五ヵ年計画」国際会議を開くなど西岸への投資開発に力を注ぎ、あたかも西岸の代表のごとくふるまつて

いるのである。しかし、西岸、ガザのパレスチナ人民の大多数はPLO支持であり、ゴラン高原のドルーブ住民の大多数も自らをシリア人とみなしている。

西岸では、一月一日、エルサレムでイスラエル人学生が殺されて以来、極右ユダヤ教徒がパレスチナ人攻撃に出ていた。二二日には、極右ユダヤ教徒がエルサレムで反パレスチナ人暴動をおこし、警察、軍隊が出動せねばならなかつた（暴動の可能性のあるデモを許可し、暴動を準備したに等しいのだが）。この日は元ヨルダン国防相ヌセイべの葬儀を行われ、パレスチナ青年が民族的スローガンを叫んだ。葬儀には四〇〇人以上が参列し、シオニストの支配・横暴に抵抗する集会の様相をおびた。言うまでもなく、パレスチナ住民は政治集会はおろか、デモも禁止されている。このヌセイべは、親ヨルダン派のブルジョアであつたが、葬儀参列等を理由に、パレスチナ人は集まつては、PLO支持表明の場とするのである。

そして、一二月に入つて、ビールゼバ大学付近で、イスラエルの占領政策に抗議していた学生に対し、イスラエル軍が発砲。パレスチナ人

学生二名が射殺された。西岸全土では、即、反イスラエル暴動に発展した。この翌日、ナブルス近郊のバラタ・キャンプでも、学生射殺に怒った一四歳の少年が、イスラエル軍に投石し、射殺された。アシュケロン刑務所でも、抗議の暴動がおこった。さらに九日、同じバラタ・キャンプで、一二歳の少年が、やはり投石して射殺された。この三日前の六日には西岸全土で、ゼネスト、抗議の暴動がおこり、イスラエルは、西岸全土を「閉鎖軍管区」と指定し、世界の目からかくそうとしたのである。戦争相ラビンは、「穩健なヨルダン支持層が西岸、ガザで影響力をもつて、いくのを恐れたPLOが、騒動を煽動しているのだ」と、PLOを非難している。が、多くの人々の話を聞いてみても、被占領地の住民自身、特に十代の少年少女達の、当たり前な、そして素直な怒りの爆発であるとのことだ。

### 三 アラブ反動の動き

「西岸開発五カ年計画」の名において、イスラエルとの暗黙の了解において、金とモノを注ぎ込み、PLOの影響力を低め、PLOにかかる「代表」をでっち上げんとするヨルダンの策動は、この暴動によって、うち破られたのである。PLOの影響力は、むしろ高まつたし、世界に被占領地のパレスチナ人がPLOを自らの代表として支持していることを告げるものともなつた。

PLOは、レバノンにおいては、「キャンプ戦争」という味方同士の殺し合いの中で泥沼に足をとられた形にある。が、被占領地内の人民の闘い方が、反帝・反シオニズムの明確な民族路線によって統一するようPLOに要求しているのである。

二 この真理に立脚して、プラハ宣言が民族再統一の一歩であるとしても、不完全かつ不十分なものでしかないとみなす。したがって、宣言に署つて、完全な責任を負うものである。

三 この眞理に立脚して、プラハ宣言が民族再統一の一步であるとしても、不完全かつ不十分なものでしかないとみなす。したがって、同宣言を改善し、完全なものにすべく、（とくに、アンマン合意破棄を正直に、かつ公式に行う問題について）再検討過程に入つたものもあった。

六 PFLPは、パレスチナの民族的総意を欠いたまま開催された第十七回PNCは違法であつたし、同PNCが悪名高いアンマン合意をお膳立てしたものとする見解を

び機構以外の政治・組織的な形態または委員会から身をひくことを宣言し、PNC参加責任をも宣言する。ハバシュ同志は、以下の主要点をもつて、PLOの再統一確立へむけたPFLPの観点を開いた。すなわち、いかなる包括的民族対話をむけても、アンマン合意の公けかつ正式の破棄が、ますなされねばならない。この破棄なしには、パレスチナ民族対話の過程は、いずれ敗北してしまうのである。同合意破棄を行ふ力をもつ主体は、確固たる民族主義を土台にしたPLOの再統一確立の努力がいきづまとしたことに関する、我が人民と革命に誓つて、完全な責任を負うものである。

四 PFLPは、アデン・アルジェ一人の観点を展開した。すなわち、いかなる包括的民族対話をむけても、アンマン合意の公けかつ正式の破棄が、ますなされねばならない。この破棄なしには、パレスチナ民族対話の過程は、いずれ敗北してしまうのである。同合意破棄を行ふ力をもつ主体は、確固たる民族主義を土台にしたPLOの再統一確立の努力がいきづまとしたことに関する、我が人民と革命に誓つて、完全な責任を負うものである。

五 ファタハ指導部に対しても、アンマン合意破棄宣言を延期したり、「その対話の席上において……同合意破棄宣言を行うことを了承している」などという不明瞭なやり方を止めよう。そうではなく、いかにも、同宣言の公式破棄を宣言するよう、呼びかける。この危険な政策を合理化するのにあれこれもつともらしいみせかけがあつたが、もう、それは止めようではないか。

六 PFLPは、パレスチナの民族的総意を欠いたまま開催された第十七回PNCは違法であつたし、同PNCが悪名高いアンマン合意をお膳立てしたものとする見解を

三 パレスチナ革命組織の大多数と共に、PFLPは、米国の解決案への二つの入口、すなわち、アンマンとカイロ、を閉鎖することが、パレスチナ民族対話の条件であるとみなししている。

### 堅持する。

七 アンマン合意破棄が宣言された後で包括的民族対話が開催される場合、同対話会議内では、現状の中でパレスチナ革命が直面するすべての政治・組織的課題と問題点を出し合わせねばならない。それらの諸問題解決をどうするのかについて、パレスチナ民族としての合意を作り上げるために、したがって、この対話会議を何か空想的な、または、どうでもよいものとして扱うことは認められない。

八 ファタハ提案にあり得ることに、一週間という短期間に切り縮めることもできない。参加主体の誰かが、この包括的民族対話過程を単なる形式とみなさない限りの話だが。

九 民族合意確立に到る前に、現在の民族同盟からPFLPが身をひき、しかもPNCへの参加を約束するということは、統一建設過程への妨害であり、諸条件をまひさせんとする政策の一部である。統一建設過程は、「ヨルダン・パレスチナ合意」破棄に始まり、包括的民族対話、合意へとつなげられ、そして、PNC開催をもつて完結するのである。以降は、PNCがその合意を尊重して、PLOを明確かつ明瞭な政策で再建し、信頼に足る、集団指導部を建設し、PLOの民主改革の方式を決定していくことになる。

一〇 PLO再統一建設、そうした統一建設に必要な諸原則について、PFLPは、PFLPの組織的立場を明らかにすると共に、その信念の実践にむけあらゆる努力を傾注せんと、ここに再び明らかにしたい。反帝・反シオニズムという民族的土台に立脚するPLOの再統一確立にむけ、すべてのパレスチナ勢力と集中的に討議し、指導性を發揮してもらいたい。これが、ちなみに、PLO側の見解として、

月刊 中東レポート  
1987年1月31日 第19号

とう「和平」に転換させようというのである。その環は、自國利害である。国際会議開催をヨルダン、エジプトは主張する。また、シリアもPLOも主張している。しかし、米帝に妥協した上で、国際会議開催を米帝に承認させようという屈服の立場なのか、それとも、米帝・シオニスト・イスラエルとの断固たる対峙、その中で力関係の均衡を通して作り上げていくのか、二つに一つの道が問われてやる。

アラファト派は、この二つの間を渡り歩いている。アンマン合意のありまい化は、このことを示しているのである。さらに、シリアへの敵対は、中東におけるシリアの政治的位置を見失い、帝国主義の策動に乗つてしまふことになっている。反帝・反シオニズムの中東総体における政治的位置を見失うならば、PLOと反シオニズムの反帝・反シオニズムの共同を分断しようとしている。さらに、レバノンの「仲介者」としてのシリアとパレスチナ勢力（反アラファト派）の反帝・反シオニズムの共同を分断しようとしている。さらに、アラファトは、前出のICOサミットへのエジプト出席をここで、アラブ首脳会議を開いていくものと予想されている。こうして、

一方、帝国主義諸国、アラブ反動派は、中東における反帝・反シオニズムの拠点たるシリアに對して、包围、孤立化策動を続けており、これを弱めることはないだろう。一〇月以来、反「テロ」という名で、反シリア・キャンペーンをかけてきているが、実質的な経済制裁を強め、シリアが政策をかえるよう、圧力を加えている。次に、「キャンプ戦争」により、シリアとパレスチナ勢力（反アラファト派）の反帝・反シオニズムの共同を分断しようとしている。さらに、アラブ反動は、前出のICOサミットへのエジプト出席をアラバ中央委員会自身、第一回PNCの前段に開かれることになっているすべての政治的・組織的条項と共に、民族対話に参加する全体会が、米帝の要求してきた「中東和平」に崩れこんでしまう危険性を意味している。

こうした策動を粉碎していく必要がある。そして、反帝・反シオニズムでのレバノン・シリア・パレスチナの共同を再建していく必要がある。には、「キャンプ戦争」という兄弟には、一キヤンペーンをかけてきているが、アラブ・ジャードは、ファタハ中央委員会からの方針案を提案した。それは、以下の主要な項目を含むものであつた。

1. （八六年）九月五日に調印されたアラブ・ジャードは、ファタハ中央委員会自身、第一回PNCの前段に開かれることになっているすべての政治的・組織的条項と共に、民族対話に参加する全体会が守るべきものである。

アラブ・ジャードは、ファタハ中央委員会からの方針案を提案した。それは、以下の主要な項目を含むものであつた。

2. ファタハ中央委員会自身、第一回PNC開催にむけた全手続き（場所と日時を含めて）を、包括的民族対話開始前に合意すること。そして、その民族対話の開始からPNC開催の期間は一週間以内とする。

3. PNC開催にむけた全手続き（場所と日時を含めて）を、包括的民族対話開始前に合意すること。そして、その民族対話の開始からPNC開催の期間は一週間以内とする。

4. 同時に、PFLPは、その民族対話において、PLOの隊列、およ

以下を参照。

## 「パレスチナ建国が、アラブ一イスラエル紛争の鍵である」

エルサレムのアル・ファジル紙主幹ハンナ・シニオラ氏のインタビュー

一九八六年一〇月

### 一 ペレス首相の最近のエジプト、米国訪問について

一つの視座から、この訪問を考えています。一番自然な考え方としては、ペレス氏が、次期選挙を狙っているというのでしょう。が、ペレス氏はモロッコのハッサンとも会談しています。この三つの訪問をみると、イスラエル側の限界を示していることがわかりますから、ペレスチナ人にとっては、肯定的なものたりえないということになります。ムバラクとハッサンが提案したすべての点（ペレスチナ代表権、被占領地からの撤退、ペレスチナ建国を含む）を、イスラエルは完全否定しています

政治調整も行うようになるかもしません

### 七 PLOが、そんな考えを支持する

「パレスチナ国建国をすました後での協力についてなら、PLOは、何も反対しないと考えています。我々の第一の課題は、エルサレムを首都とするパレスチナ国を西岸に建国することにあります。将来は、建軍に力んでいくよりも、経済関係作りを重点にしていくことになるでしょう。新しいパレスチナ国を非武装にしようと、私は提案したくらいです」

### 八 PLO主流派が、国連決議二四二、三三八を受け入れるでしょうか？

「アンマンで行つたあの交渉に立ちもどるとすれば、二四二、三三八を含む国連決議承認を明記した提案をPLOは出したのです。PLOが主張したのは、それらの決議を承認しないということではなく、欠けているがゆえにパレスチナ人が現在闘いとらんとしている要素、これを入れてほしいということでした。つまり、パレスチナ人の存在の承認、自

決権、パレスチナ人の政治的・民族的権利です。

二四二、三三八を我々が受け入れる第一の段階としては、まず米国が我がの自決権を承認することです。

米国の側が、和平交渉にパレスチナ人が参加する前提として、二四二、三三八の承認に固執する限り、平和作りますから。

今年の二月、和平会議参加条件として、我々パレスチナ人は三つの条件をつきつけられました。第一は、イスラエルと交渉すること、第二は二四二、三三八の承認、そして第三は、テロル拒否。第一の条件については、PLOは、まずFセイン国王にPLO提案を示し、Fセイン国王から米国務省に再提案してもらつた提案の中では、国連安理会常任理事国五カ国と、関連アラブ諸国が参加する国際会議において、イスラエルと交渉することに合意しています。ですから、この主要点については、問題はありません。また、PLOは、

「PLO主流派が、国連決議二四二、三三八を受け入れるでしょ

うか？」

「アンマンで行つたあの交渉に立ちもどるとすれば、二四二、三三八を含む国連決議承認を明記した提案をPLOは出したのです。PLOが

主張したのは、それらの決議を承認しないということではなく、欠けているがゆえにパレスチナ人が現在闘いとらんとしている要素、これを入れてほしいということでした。つまり、パレスチナ人の存在の承認、自

国連決議を承認するのとひきかえに、内の統一見解が作れないとしたら、米国の側も譲歩が迫られたわけです

が、米国にはその準備がなかつたということがあります。米国がパレスチナ人の自決権を承認しない限り、我也両決議を承認するわけにはいきません。ですから、とがめらるべきは、米国なのです」

### 九 和平展望を楽観視していますか

「長期的にみると、そうですね。短期に考えると、樂觀視してはおりません。ロナルド・レーガンとミハエル・ゴルバチョフが会談し、中東

に問題が動いていく可能性があります。両者の理解がない限り、中東は、両超大国の遊戯場でしかなく、その結果どんなことになるのか、予測もつきません。

とともに、イスラエル国内の動きを注目しておかねばなりません。イスラエルの首班交代があるからとい

つて、とくに気をそそられるということはないですね。来年の春か夏、

パレスチナ側が二四二、三三八の両

「長期的にみれば、我々は、手をこまねいているたちの人間ではありません。現在、我々は、当然の権利回復のために闘っています。我々の隣には、ユダヤ人が生きた実例を示してくれています。現在の近代世界にあって、パレスチナ人も、二〇〇〇年も待たないで、自らの権利回復をやりとげられると思います。まあ、

むこう一〇年間、これが要となります」

### 一〇 長期的には楽観的だとする根拠は？

「長期的にみれば、我々は、手をこまねいているたちの人間ではありません。現在、我々は、当然の権利回復のために闘っています。我々の隣には、ユダヤ人が生きた実例を示してくれています。現在の近代世界にあって、パレスチナ人も、二〇〇〇年も待たないで、自らの権利回復をやりとげられると思います。まあ、

むこう一〇年間、これが要となります」

「PLOは、武力でレバノンにもどつていくつもりなのか？」レバ

## 二 中東和平実現過程におけるペレス氏からシャミル氏への首班交代の意義

「労働党のペレス氏のほうが、リクードのシャミル氏よりも和平への契機を持っていると信じます。前に

ために言っておけば、労働党の前首相たちへたとえば、ゴルダ・メイヤーなど）は、パレスチナ人の存在そのものすら否定していたのに比べて、ペレス氏がパレスチナ人の存在を承認しました。

イスラエル首相として初めて、ペレス氏がパレスチナ人の存在を承認したことですが……

「再び言いましょう。パレスチナ相たちへたとえば、ゴルダ・メイヤーなど）は、パレスチナ人の存在そのものすら否定していたのに比べて、ペレス氏がパレスチナ人の存在を承認しました。

イスラエルのパレスチナ人の存在そのものすら否定していたのに比べて、ペレス氏がパレスチナ人の存在を承認しました。

第三者、お飾りといった我々にかわる存在を捜しているので、パレスチナ人の権利について語る時ではない

もともと、ペレス氏は、パレスチナ人の政治的民族的権利について言及してはいませんが。もし我々の存在を承認するのなら、当然、我々の権利に言及してしかるべきものなのですが。そうではなく、ペレス氏は、

第三者、お飾りといった我々にかわる存在を捜しているので、パレスチナ人の権利について語る時ではない

もともと、ペレス氏が、パレスチナ人の選んだパレスチナ人のリーダー、つまりPLOですね、これとの対話を拒否するのであれば、和平を実現することは、叶いますまい。時間の無駄でしょうね」

### 四 PLOがイスラエル＝エジプト首脳会談の結果に満足している

「PLOは、出席していませんでした。その問題について、アラファト氏は、インタビューや、首脳会談を黙殺すると同時に、エジプトの役員の一致を作りえていませんし、彼らには、政治的支持もないのです」

「PLOは、出席していませんでした。その問題について、アラファト氏は、インタビューや、首脳会談を黙殺すると同時に、エジプトの役員の一致を作りえていませんし、彼らには、政治的支持もないのです」

「三国連邦をめざしているイスラエル人グループと会談した結果、出されたものなのです。私にとっては、現在ない環、すなわち、パレスチナ国をどう建国するのか、これが最重要です。

しかし、我々がパレスチナ建国に成功した折には、三国の経済連合が望ましいと考えています。そうして、我々は、言わば、ミニ・中東マーシャル・プランというような、開発計画を必要とするでしょうし、きっと、ペネルクス三国のような共同市場を作れるようになるでしょう。そして、

## 三 ペレス首相は、ムバラク大統領との会見により、PLOを舞台にしたとか言われていますが……

「再び言いましょう。パレスチナ人の権利の中でも、第一のものは、自決権なのです。パレスチナ人が、自らの未来をどう描くかとい

うだけではなく、自分たちのリーダーを自分で決めるという点も、自決権です。

もしペレス氏が、パレスチナ人の選んだパレスチナ人のリーダー、つまりPLOですね、これとの対話を拒否するのであれば、和平を実現することは、叶いますまい。時間の無駄でしょうね」

六 将来、イスラエル＝ヨルダン＝パレスチナの連合、こういう提案を最近なさったとか？ 現実は、どのような形になるのでしょうか？

「三国連邦をめざしているイスラエル人グループと会談した結果、出されたものなのです。私にとっては、現在ない環、すなわち、パレスチナ国をどう建国するのか、これが最重要です。

しかし、我々がパレスチナ建国に成功した折には、三国の経済連合が望ましいと考えています。そうして、我々は、言わば、ミニ・中東マーシャル・プランというような、開発計画を必要とするでしょうし、きっと、ペネルクス三国のような共同市場を作れるようになるでしょう。そして、

「ハッサン＝ペレス会談、ムバラクの件が出たと確信しています。しかし、イスラエル首相が積極的な反応を示さなかつたということなので

「ハッサン＝ペレス会談、ムバラクの件が出たと確信しています。しかし、イスラエル首相が積極的な反応を示さなかつたということなので

「ハッサン＝ペレス会談と、いずれにおいても、PLOの件が出たと確信しています。しかし、イスラエル首相が積極的な反応を示さなかつたということなので

自らの道義的責任を守らねばならない。キャンプ戦の過程でいくつかの合意が成立してはいるが、私の思うに、キャンプは、難民キャンプというより、軍事陣地というべきものになっている。だから、各方面から調停援助があつても、成功しないだろうと思う。現在のキャンプ戦は、あの七五年当時、テリ・ザータルや他の地区で開かれた（今も続いている）パレスチナ人対レバノン人の戦闘である。そして、これを解決する唯一の方法はパレスチナ人は、レバノン人に寄留しているのであるから、武装してはならないということを、パレスチナ人に納得させることだ。パレスチナ人民間人は、アラブ各国にふりわけが決まるまで、キャンプ内に留まらねばならない。

人口レベルからみても、パレスチナ人が現在の規模でレバノンに残留することには反対である。ヤセル・アラファトに言わせると、パレスチナ問題は、全アラブの責任であるそうだ。ラシャディエとペイルートだけでも、五〇万人のパレスチナ人がいる。しかし、肥沃でしかも人の住んでいない土地

答　…あなたが軍事的に支持するのは、どっち側ですか？

答　…このキャンプ戦は、アマル対パレスチナ人ということにされているが、実は、そういうたちのものではない。人口上からみたら、これは、レバノン人とパレスチナ人の闘いなのである。

問　…アラブ連盟が、このキャンプ戦解決策を作れると思いますか？

答　…アラブ連盟がいくら会議をやつても、うまくいかないだろう。過去、成功した試しもなく、いつだ

問　・L.F.(レバニーズ・フォーシズ)の大会だか、会議だかがありましてね。シーダーの守護党は、どういう役割を果たしたのですか？

答・レバノン・シリア首脳会議が開かれておりますが。これまで、その首脳会議が一回二回あつたのに、何も成果などなかつた。シリアは、レバノンの保安を保障できないし、レバノンにとってシリアは、小羊を狙う狼のようなもの。だから、首脳会議が、全部失敗してきたのである。シリアの意図は、はつきりしているし、よく知れわたつてもいる。つまり、レバノンに対する優位性強制である。シリアの望む解決案大統領、政府、合意・対話をおしつけたり、それがうまくいかない

答：我々は、レバノン情勢、そしてパレスチナ人の統一問題について討議はした。しかし、その会議では、レバノンに戻ることについては、全く何も決めていない。現在はレバノンにはないPLO指導部だけが決定したことである。パレスチナ民族の再統一という目的のためにレバノンに戻るわけはない。

問 アラブの各国政府がパレスチナ建国を望んでいると、あなたは答 考えるか？

答 はつきり言つて、望んでいない。

シリアとヨルダンが最も強く反対するだろう。もし、パレスチナ国家が存在するなら、ヨルダンの国家としての存在理由がなくなる。

シリアに関する限りでは、シリアの望むのは、大シリアである。パレスチナ国家建国に反対することを公言するアラブの指導者はいない。パレスチナ建国ということになれば、それは、民主的で、高等教育を受けた国民の国になるだ

問・P L O がテロルに関与していな  
いとするなら、背後にいるのは誰  
なのか?

答・パレスチナ人の夢を実現するま  
で闘う P L O であることを信じな  
いパレスチナ人がある。これらの  
グループは、彼らを支持してくれ  
る国家の利益に奉仕している。も  
しパレスチナ国家が存在するよう  
になれば、テロ行為の九〇%は減  
るだろうと、私は信じている。

問・キャンプ戦が終結していないが、停戦調停努力が各方面からあります。地域レベルで考えてみた時この戦闘は、無限に続くのでしょうか。

答・パレスチナ人は、我々の客であるから、レバノンにおしつけられた荷物というふうに考へてはならない。公正な解決策が決定するまでの期間、パレスチナ人は、レバノンに留まるのである。そのパレスチナ帰還の日まで、パレスチナ人は、レバノンに限らず、自らが居住するアラブの国々において、

ノンで、今おこっていることの背景としてあるのか？また、このことは、P L O の統一について、他のパレスチナのリーダーたちと話し合つたことなのか？

ういう国際会議が開催されることになつたら、ハバシェは、我々と共同歩調をとるトップ・バッターになるだろう。

ろう。それは、彼らには、危険なモデルになりかねない（だから、本音では、反対するのである）。アラブ諸国の中には、イスラエルと同じくらい、我々に敵対する政

## \*シーダーの守護党リーダーのインタビュー

\*資料(2)  
シーダーの守護党リーダーのインタヴュー

る。それは、「特別な」関係ではないというわけであろう。

また、ファンジスト側が「きわめて良い」関係を望むというのも、できる限りの譲歩である。

資料③

一九八六年一一月中旬

「F 執行委員会副議長パ  
クラードゥーのインタヴュー」

問  
・カラミ内閣に対して、辞任要求、閣僚評議会解散要求が強く出ています。どうしたら、この危機をのりこえられるのでしょうか？

答  
・多くの提案が出されていますが、各々矛盾しあっている。問題自身が複雑にからみあっている以上、解決案も簡単なものではできないということになるのである。

個人見解を述べさせてもらうと、「救国政府」とか「举国一致内閣」とかいう鳴物入りで成立はしたものの、カラミ内閣は、レバノンを救うことはおろか、国民の統一作

問　・その新内閣が、危機を克服できると思いますか？

答　・次期内閣は、きっと政府としての会合ができるだろうし、解決へむけた新しい手がかりをつかむこともできよう。

問　・しかし、現内閣には、各派の実力者が集まつたわけでしょう。それでもできなかつたということです。それなのに、実力者でもなく、または「武将」と呼ばれる人々が内

きりと分けねばならないのだ。この三つの会議の進行は、平行的になされるべきであって、どれかとどれかを関連させる必要はないといふことは考へておる。まず、バーブダで閣僚会議を開催し、社会・経済委員会、もしくは社会・経済緊急委員会をもつこと。次に、レバノン政体改革にむけては、対話委員会を開く。そして、レバノンシリア首脳会議を開き、両国關係を検討すれば良い。

問　ホス博士は、大統領、首相の問題（民族派は大統領辞任を、クリスチャン右派は首相辞任を要求している——編注）を論議するよりも、まず、経済危機解決をと呼びかけています。この意見について、どうお考えですか？

答　ホス博士の呼びかけには賛成ですよ。経済、社会救済は、政治、保安、その他あらゆる問題に優先させるべきと考えているので。

1987年1月31日 第19号 月刊 中東レポート

答　根本的な経済問題解決ということと、現在の経済困難を克服するということは違う。逼迫した経済危機の一定の克服は可能だが、次の諸条件を充たさぬ限り、根本的な解決には到らないと思う。すなわち、イ・シリア、パレスチナ、イスラエルから、レバノンの土地を解放する強力な中央政府建設

ハ　経済をここまで破滅させた無能力の政治家、官吏の罷免

口　こうすれば、レバノン通貨は信用回復できよう。が、それでも、これは暫定的措置にすぎない。な

問…仏はUNIFIL内仏部隊を縮小し、イルランドは撤収を考えているとされています。八七年二月（現在のUNIFIL駐留期限切れ）に、レバノン南部からUNIFILは撤収することになると考えますか？

答…もっと早く、UNIFILには撤収してほしいのだ。役立たずだからである。UNIFIL部隊を派遣している諸国は、善意からやってくれてはいる。が、UNI F I Lは、潜入、武器密輸、軍事作戦の阻止をやってくれているだろうか？ とんでもない。おまけで

Fと何か紛争中とか、私に対する暗殺未遂があつたとかいうのも事実無根である。

\*<sup>1</sup> この党は、イスラエルとの関係良好。  
\*<sup>2</sup> 「きわめて良い」はexcellent、「特別な」はprivilegedと訳されている。八五年年末の三者合意で「特別な」シリアルとの関係規定を行った。クリスチヤン右派側は、レバノンの政治改革と共に、シリアルとのこの関係規定に反対している。「対話委員会」停止も、直接の原因は、この関係規定をめぐつてであった。なぜなら、この規定を受け入れると、以後、シリアルの援助を受けた民族派が、有利に政治改革を進めるのを認めるところなるうし、反帝・反イスラエル路線でレバノンの近代国家建設が始まることにもなるからである。レバノンの「独立」、「主権」を

と、ひっこめさせたりするのである。  
だから、外国軍隊の軍事力の脅しの中でどういう対話をやつたとしてもうまくいくわけはない、私は信じている。シリアがレバノン主権を尊重するなら、レバノンシリヤ両国に各々の大使館を設置し、シリア軍を撤退させてほ

せなら、今すぐレバノンを解放で  
きるあてもないから。したがつて  
実効力をもつ諸勢力が、大衆組織  
を動員して、暴利や物価急騰抑制  
にむけ、圧力をかける必要がある  
我々は、ペイルート東西、または  
イスラム区、クリスチヤン区の両  
者が調整しあつて、商人の金もう  
け主義を抑止してほしいと考える

に、南部配備ということで、あたかも南部にしか外国軍隊がないないといふ印象を与えていたが、いよいよ北部へ進むと、いよいよ北部には、外國軍はいたのだ。北部、ベカールには、外國軍はいたのだ。誤った印象を抱くのだろうか！　誤った印象を抱くのだろうか！　誤った印象を抱くのだろうか！　誤った印象を抱くのだろうか！　誤った印象を抱くのだろうか！

諸外国と同じような関係をシリアとの間にも望むものである。つまり、両国の共通の利益に立脚し、どちらかが相手に対してもゲモニーや優位性をふるうとかいうものにならないようにしたい。この「特別な」とか、シリアとの関係規定論議は、一体全体、まちがつている。

問　ホス博士は、大統領、首相の問題（民族派は大統領辞任を、クリスチャン右派は首相辞任を要求している——編注）を論議するよりも、まず、経済危機解決をと呼びかけています。この意見について、どうお考えですか？

答　ホス博士の呼びかけには賛成ですよ。経済、社会救済は、政治、保安、その他あらゆる問題に優先させるべきと考えているので。

答：名々の会議には、独自の本部というものがある。閣僚評議会以外の所では、憲法、国政に関する行政上の決定を下すことはできない。対話委員会は、レバノン人が存在する場所ならどこでも構わないわけだ。ただし、対話委員会は、経済状況、レバノン改革問題をさらにこみ入らせてしまうような前提条件ぬきで、主要問題を討議すべきである。つまり、内閣が活動もせず辞任もしないのなら、解決策を得れるような方法くらいは、出してしかるべきである。

答：ホス博士の呼びかけには賛成で  
すよ。経済、社会救済は、政治、  
保安、その他あらゆる問題に優先  
させるべきと考えてるので。

答・一つ、追加発言させてほしい。

ホス博士が、その呼びかけをした時、イスラム、クリスチャンを問わない苦痛を表現したのだと思う。が、ホス博士はじめ西ペイロートのリーダーたちは、現状に不満なのに、正直にそれを表明できない。

ホス博士が、感動的な呼びかけをしてから、政府と共に責任を全うしていくか、さもなくば、辞任するがしても、私は驚かないだろう。が、もしも、ホス博士が相かわらず政府ボイコットを続けるとしたら、これは、考えられないことではないか。

問・どうやって、この窮状を解決できるのでしょうか?

答・三つの基本的措置が必要だろう。それは、第一に、内閣を社会・経済問題解決緊急委員会に改組し、第二に、対話機構にもして、第三に、レバノン-シリア交渉をスタートさせて、未解決の問題をつめていくことである。

答・(バーブダではなく)国会では? それではダメだ。国会の役割は

答・キャンプ戦は、シリア-パレスチナ紛争の一側面である。この間激化したのは、ハーフェズ・アサドとヤセル・アラファートの対決における最前線化したからである。この戦闘の結果如何で、シリア大統領、パレスチナリーダーとしてのアラファートの地位に変化が生じてくるだろう。我々LFの立場は、理論上ものでしかないが、現実的な提案をしたい。

答・理論的に言えば、パレスチナ人がレバノンで武装勢力化したために、ジリアの介入を招いた。その結果、イスラエル軍が侵略してきた。したがって、解決策としては、非レバノン軍のすべて、非レバノン軍事組織すべてがレバノンから撤収すること。

答・アラブレベル、国際レベルの安全保障下、レバノン中立化声明を宣する。そして、民間人としてのパレスチナ人に、アラブ、国際的な保障を与えると共に、武装解除する。

答・戦争終結にむけては、国際軍を配備し、キャンプ存在地区を含む全レバノン領に同軍配備を拡大する。

追加すれば、このイ、ロ、ハを速

別個なものだ。なぜバーブダのかというと、憲法規定に従えば、立法府と行政府の分離が必要。

口 憲法によれば、閣僚評議会は、大統領議長下で開催されねばならない。

ハ 閣僚召集ボイコットは、大統領ぬきの閣僚評議会開催を呼ぶべきかた三者合意の応用にすぎないというのが、私の見解である。我々の側は、この三者合意に反対した以上、バーブダではない場所での、そして大統領を議長としない閣僚評議会には、反対する。

問・ある週刊誌とのインタビューで、あなたは、次のように主張しています。つまり、「フランス大統領任期終了期にシリアがレバノンに入り、サルキス大統領任期終了期にはイスラエルが入ってきた」とすれば、ジェマイエル大統領任期終了期には、この「例をしのぐ大変動がありう」と。どの方向に、どれくらいの規模で、その変動がおこりうるということでしょうか?

答・我々の前途には、次のような可

能性があるということだ。すなわち、八八年は、七六年、八二年と同じくらい重要な結節点になるであろう。つまり、レバノン危機と中東危機が八八年には結節点をむかえるであろうということである。七六年にシリア軍が入り、八二年にイスラエル軍が入ってきたが、八八年には、両軍が出ていくだろうと考えている。

答・一つの可能性は、中東レベル、そして国際レベルの交渉。そして、その交渉の結果として、中東危機を政治解決していくことに

なる。別の可能性は、野放図の軍事解決ということになろうし、そうなれば、多くの侧面が出てくる。戦争による解決とでも言えよう。これは、事前に宣言された戦争という形態にはならないだろう。

問・どのようにですか?

答・モナ・ソルハ氏によれば、ジェマイエル大統領任期中にレバノン危機の解決がなされないとしたら、レバノンはもう終わりだとのこと。

答・モナ・ソルハ氏によれば、ジェマイエル大統領任期中にレバノン危機の解決がなされないとしたら、レバノンはもう終わりだとのこと。レバノンはもう終わりだとのこと。そうでしょうか?

答・私の意見は、そうではない。もしこの飢餓の最中に解決できない

としたら、決して解決できないであろうと思う。

答・レイモン・エッティ議員によれば、現在の発展は、レバノンにおける戦争終了を示すもので、各宗派分裂が成立してしまった後では、もはや裸の段階しか残らないとのことです。どうでしょうか?

答・明らかに、内戦後のレバノンは、内戦前とは違うものになるにきまっている。レバノン戦争が誰かの特定の企みで始まり、特定の方向にむかっているとは思わない。それよりも、多くの企て、多くの潮流が入りこんでいると思う。

問・レイモン・エッティ議員によれば、現在の発展は、レバノンにおける戦争終了を示すもので、各宗派分裂が成立してしまった後では、もはや裸の段階しか残らないとのことです。どうでしょうか?

答・明らかに、内戦後のレバノンは、内戦前とは違うものになるにきまっている。レバノン戦争が誰かの特定の企みで始まり、特定の方向にむかっているとは思わない。それよりも、多くの企て、多くの潮流が入りこんでいると思う。

問・キャンプ戦について。戦闘が激化したり、鎮まつたりがくり返しています。このくり返しの元凶は何で、その目的は何ですか? また、LFは、キャンプ戦について、どのような立場をとっているのでしょうか?

答・実際、超大国間レベルのそうした武力衝突は八二年(のイスラエルによるレバノン侵略)以降の発展のように、危機の長期化になるかも知れないし、逆に緊張緩和につながるかも知れない。反応が否定的方向にむかうこともありますし、逆に肯定的になるかも知れない。

答・肯定的な方向にむかう場合、中東問題レベルの交渉への道を拓くだろうし、そうなったら、その中で、レバノン問題もその一部として討議されることになるだろう。

問・どちらの反応になると思いますか?

答・レバノン側の実力にすべてがかってくると信じている。レバノン統一決定、またはレバノン危機を解決していくためにいかなる情勢をもつかんでいけるようなレバノン主体の決定があれば、全面、

やかに実行する条件が現在あるとは思っていない。が、中東危機解決国際会議、またはレバノン危機解決国際会議によって、条件作りが可能である。今や、レバノンは、中東危機に影響力をもち、中東危機解決案の一条項として扱われなければならない。レバノン危機は、西サハラ危機とは違うだろうか?

西サハラ問題は、中東危機解決にとって必要十分条件ではない。が、レバノン問題には、確実に、中東問題から切り離しては解決できない性質なのである。中東和平国際会議開催がいつになるか、まだわからない。が、議題の中に、レバノン問題が入るであろうことは、確かなのだ。

問・シリアが軍事力均衡段階に達する前に、イスラエルが予防攻勢をかけて、戦争をしかけるであろうと、ソ連の軍事力カバーがあるので、そういう戦争は起こらないのでは? よしんば、そんな戦争になつた場合、レバノンはどんな影響を受けされることになりうると考えますか?

答・イスラエル-シリア戦が近づきつつある。が、戦場は、レバノンではないだろう。ソ連の立場については言えず、前回と同じ立場をとるものと思う。超大国は、自らの利益を守るために、小国同士で代理戦争はやらせるが、小国の利益を守るために自らが直接交戦するということはやらないものだ。

答・いつも、新要素が出てくるのだ。レバノンは国際テロの巣窟、レバノンがアラブ間紛争の舞台、そし

たら、世界からおさえこまれることになるのでは?

答・どちらの反応になると思いますか?

答・レバノン側の実力にすべてがかってくると信じている。レバノン統一決定、またはレバノン危機を解決していくためにいかなる情勢をもつかんでいけるようなレバノン主体の決定があれば、全面、

または部分的な解決に到達することができよう。が、レバノン側の意志という性格そのものが欠如したら、どんな好機ものがしてしまうことしかないと信する。

問・政治紛争がいつこうに解決へむかわぬ間に、レバノン通貨と外国通貨との交換レートが武器として使われていますが、レバノン中で飢餓の問題が現実に大きなものとなっているのをみても、この武器の威力が知れます。政治紛争と経済解体問題とを分離することは可能でしょうか?

答・政治闘争と経済解体は分離されねばならない。経済問題の解決と政治問題の解決は別個の領域としてとりくまれるべきである。が、誰かが保安よりも政治を優先させることができたら(これは、むずかしいことではあるのだが)、どんな状況下であろうと、何人といえども経済よりも政治、保安を先行させることはできない。

現在の経済状況を作った主要目的は、政治上のゆきづまりを創出することにある。なぜなら、国家、通貨への信頼を失わせること、政治・経済状況の解決のつながりを

うつこと、これらが、経済悪化、解体実情の元凶だからである。こうして、レバノンを不斷に飢餓に陥れる陰謀へとつながったのである。

武装し、不満のない人間を統轄するのは、易しいものだ。武装力もなく、飢えた人々も、しばらくの間は、統轄に従うだろう。が、武装しているが同時に飢えてもいる人々を統轄するには至難の技なのだ。現状を一言で表現するとしたら、そういう図になるだろう。

今や、無法への端に、そして人民蜂起のいつおきてもおかしくない状況になっている。

問・蜂起といつても、リードするのは誰でしょう? 人々は全く統一を欠いているのですが。

答・それは、過去の話だろう。私は、将来の展望について言っているのだよ。飢えを何とかするための戦争だけで、優にすべての宗派間戦争をしのいでいるということだ。

問・この危機で責任を問われるべきは、大統領、閣僚会議、国会、: : : 誰でしょうか?

答・何とかこの危機に対決していくうとする決定を妨害するのに責任がある。経済危機解決には、政治・経済的決定が下されねばならない。私の意見では、(反大統領の立場から、閣議召集を)ボイコットしている首相に、特別に責任を帰すべきだ。そのボイコット政策の結果、行政府として、何も決定しえないという実情を作っているのだから。

対話委員会が会議を続けていた時、ドル交換レートは下がっていた

はシリアへ特使を派遣し、合意への修正対案を提案した。それを、シリアは受けた。LF特使は、譲らなかつたのだが、副大統領のアブダル・ハリム・カッダムは、こう通告した。「三者合意に調印するか、さもなくば、半年後に、すきつ腹で我々の許に来て、三者合意に調印させてほしいとおがむかだ」と。我々は、現在、新しい戦争を闘っている。三者合意を実力でのませんとする企てが背後にあらからである。

問・八八年のレバノン大統領選には、大統領、閣僚会議、国会、: : : 誰でしょうか?

答・カリム・パクラドゥニは、パクラドゥニとしてのみ存在し続けるされた英訳ではない

### GCC(湾岸協力機構) 第五回サミット声明

(同サミット会期は一一月二五日。これは、公式に確認された英訳ではない)

GCCは、イランーイラク戦について検討し、両国のイスラム人民がこうむつた破壊、および地域の安全と安定がどのように危機に瀕しているかについても、検討した。同戦争が、現在もなお、継続していることは残念であると、GCCはここに再び表明する。そして、両国のイスラム人民の利益が、この戦争の危険な拡大と継続により、損なわれることを、きわめて憂慮するものである。

の三月一日から、その国の国民と同じように操業できる。

また、まず国内産品をGCC諸国に満足しており、GCC内の安全と安定を強化・保障するために、GCC諸国間の安全装置どうして協議を統一した経済的合意実行へむけた

諸措置を講えると共に、この統一経済計画実行に必要な諸措置が重要であるということを、GCCは確認した。つまり、

一、一九八七年三月一日以降、GCC諸国は、GCC内のどの国でも、その国民と同じよう銀行からの融資、または工業、開発基金の融資を受ける資格を持つ

う。問題は、こうした目的をもつてなされた米国の努力、iranへの武器そのものとか兵器部品運搬を含むそうした努力が、結果として、iran政府およびiran配下のテロリスト集団が米国くみやすしとして、さらなるテロルへと走らせることになつていなかつたかという点である。

米国は、ガルフ戦に関して中立を保ち、名譽ある戦争終結をめざすと、いうことを宣言してきたものだ。私は、米国のそうちした立場を歓迎していた。と言うのも、iranは、平和的解決の道を何とかつかもうとしたきたからである。iranの側は、これまでなくとも、一〇〇万人に及ぶ死者を出しているイラクーiran戦争でなくとも、少なめに見積ったとしても、緊張が高く、かつ重要なガルフ地域に、大きな不確実性をもちこんでいる。それが露されているが、この問題は、どう

あらゆる努力を尽くし、この戦争終結をめざす国際的な主導性を支持していくことをGCCはめざすものである。

また、公海航行自由を定めた一九八四年の国連安理会決議五四二の実行に、GCCは、責任を負うものである。ゆえに、iranがこの国際的意志を尊重し、GCC参加国が当然の権利保持、およびGCC参加国が港湾を利用するための航海の自由を保持することを尊重するよう、iranに呼びかける。

問・八八年のレバノン大統領選に、あなたが候補者指名をうけることがありますか?

答・カリム・パクラドゥニは、パクラドゥニとしてのみ存在し続けるという指名をうけているよ。

的に繁栄し、イラン人民の要求を充たし、覇権を追求せず、この地域の安全と安定を建設的に確立していくことなのである。この点は、米国も同じ願いを抱くものと、広く考えられてきた。米国が、イランへもイラクへも武器輸出禁止を行ってきた事実、これが断固とした米国の責任の通りであるとみなされてきたのである。また、米国は、イランへの武器の流入を何とか食いとどめると、何度もイラクに請け負つてもきた。

しかし、現在、米政府がイランに対して極秘裡に兵器を搬入していたと認めているわけで、兵器の型とか量には関係なく、米国の中立性が大いに疑問視されることになった。それ以上に、米国以外の兵器輸出国にとっては、イラクへ武器を再び売る格好の口実ができるのである。

こうして、イランは、戦争物資供給先をつかんだので、紛争を終結させようという方向にほとんど、いや、

全く向かわなくなつたのである。闘争が継続するということは、両国がさらには甚大な被害者を出し、破壊が続くということ。イラン指導部内のある派等は、イラク以外の国に対し

て対抗しないまでも――。

アラブ諸国は、西側の言いなりになりもししなければ、西側が好き勝手に揃りとれるものでもないといふことを、西側にはっきりとわからせようではないか。実態としては、現在のアラブの経済力はまだ弱いものではあると、牙をぬきとられて骨ぬきになつてゐるわけではないのだ

サウジアラビアのアル・ヨウム紙

「レーガンがイランに武器を供給したのは、次の二つの理由のみある。」

第一は、反テロの雄叫びは、イランと関係しているリビアを攻撃するための偽の主張でしかなかつたといふものだ。レーガンがテロリスト呼ばわりする諸国からリビアに武器が渡らないということを、レーガンは保証できないのである。

第二は、ワシントンとテヘランは、実はもつと大きな取引をしくんでいたということであろう。すなわち、かつて、イランは、中東で（米国の）憲兵の役割を果たしてきたのだが、米国は、イランとの道をつけ、イランが米国兵器を使って中東に新たな大荒廃をもたらすよう意図している

「ということである」

### サウジアラビアのアル・ニュース紙

「この事件は、外交政策展開につ

いてレーガン大統領を補佐する人々

の品性、能力がまともなのだろうか

という深刻な疑惑を呼びおこし、レ

ーガン大統領自身が現実の諸問題を

どこまできちんと把握しているのだ

うか、そして米国の政策総体が大

丈夫なのだろうかという不安を呼び

おこすことになっている。――

た政治家の一人である。――

「勇気づけるために、イランへ武器をひき渡したと主張しているのだが、皮肉なことに、イラクのみならずアラブ穏健派を怒らせてしまつたのである」

資料⑥

### ハシ裁判判決後の西独政府の措置

一、（駐西ベルリン）シリア外交官

五人追放（一月二七日）。

二、対シリア低利ローン七三〇〇万

ドル停止。

三、駐シリア大使任命中止（前駐シ

リア大使は、「一月一七日に任期了」。

四、テロリストが使用したと同種の

シリア旅券使用を認めない。

五、ハシ・グループの黒幕アブ・ア

ハマド（ハイタム・サイド）の国際

指名手配。

### ヨルダンのヨルダン・タイムズ紙

「ワシントンの二枚舌外交を非難するだけでは不足である。アラブの不満と弾劾の言葉だけでも、米国の中東政策の破産宣言なのである。たとえ、アラブが（米国の表裏使いわ

る）ガルフにおける権益も影響を受けたとしても、ガルフ地域、ガルフ外の地域の政治情勢がひどく悪化した場合、米国は、明らかに過小評価されてしまう。」

この間珍しく暴露された米国の（対

イラン）政策をみて、イラクおよびアラブの同盟者（エジプト、ヨルダ

ン、サウジアラビア、クウェート、

そしてガルフの国々）は、深く憂慮

するものである。しかし、米国が自らの威信を失うような政策展開を、

とくにガルフ地域のきわめて複雑な

情勢下で、行う場合、どうやってこ

の憂慮を表明したら良いのだろうか？

こうして、イラク－イラン戦争では、米国が

中立を保つことが和平の道で

重要な要素たりうるのである。過去

そうであつたし、現在もそうである。

他のいきづまっている紛争も決して

解決しえない。アラブ世界において、

イラクは、安定と平和の主要要素で

ないと決意していた時、イランには、

武器は過激派を助長する。アラブの軍事能力に自信をもつよりも、和平を追求すべきであると、イランが平和を追求し出すことになるからである。その中には、米国や他の国との協力が含まれることになる。また、紛争が片づいて初めて、イランが、ガルフでの責任をとる役割を果たす国になるということである。

この戦争を止めない限り、中東の

戦争が片づいて初めて、イランが平和を追求せねばならない。

戦争終結、これを最重点課題とす

べきなのである。なぜなら、この紛

争が片づいて初めて、イラクが平和を追求し出すことになるからである。

その中には、米国や他の国との協力

が含まれることになる。また、紛

争が片づいて初めて、イラクが、ガ

ルフでの責任をとる役割を果たす國

になるということである。

この戦争を止めない限り、中東の

戦争が片づいて初めて、イラクが平和を追求せねばならない。

戦争終結、これを最重点課題とす

べきなのである。なぜなら、この紛

争が片づいて初めて、イラクが平和を追求し出すことになるからである。

その中には、米国や他の国との協力

が含まれることになる。また、紛

争が片づいて初めて、イラクが、ガ

ルフでの責任をとる役割を果たす國

になるということである。

この戦争を止めない限り、中東の

戦争が片づいて初めて、イラクが平和を追求せねばならない。

戦争終結、これを最重点課題とす

べきなのである。なぜなら、この紛

争が片づいて初めて、イラクが平和を追求し出すことになるからである。

その中には、米国や他の国との協力

が含まれることになる。また、紛

争が片づいて初めて、イラクが、ガ

ルフでの責任をとる役割を果たす國

になるということである。

この戦争を止めない限り、中東の

戦争が片づいて初めて、イラクが平和を追求せねばならない。

戦争終結、これを最重点課題とす

べきなのである。なぜなら、この紛

争が片づいて初めて、イラクが平和を追求し出すことになるからである。

その中には、米国や他の国との協力

が含まれることになる。また、紛

争が片づいて初めて、イラクが、ガ

ルフでの責任をとる役割を果たす國

になるということである。

この戦争を止めない限り、中東の

戦争が片づいて初めて、イラクが平和を追求せねばならない。

戦争終結、これを最重点課題とす

べきなのである。なぜなら、この紛

争が片づいて初めて、イラクが平和を追求し出すことになるからである。

その中には、米国や他の国との協力

が含まれることになる。また、紛

争が片づいて初めて、イラクが、ガ

ルフでの責任をとる役割を果たす國

になるということである。

この戦争を止めない限り、中東の

戦争が片づいて初めて、イラクが平和を追求せねばならない。

戦争終結、これを最重点課題とす

べきなのである。なぜなら、この紛

争が片づいて初めて、イラクが平和を追求し出すことになるからである。

その中には、米国や他の国との協力

が含まれることになる。また、紛

争が片づいて初めて、イラクが、ガ

ルフでの責任をとる役割を果たす國

になるということである。

この戦争を止めない限り、中東の

戦争が片づいて初めて、イラクが平和を追求せねばならない。

戦争終結、これを最重点課題とす

べきなのである。なぜなら、この紛

争が片づいて初めて、イラクが平和を追求し出すことになるからである。

その中には、米国や他の国との協力

が含まれることになる。また、紛

争が片づいて初めて、イラクが、ガ

ルフでの責任をとる役割を果たす國

になるということである。

この戦争を止めない限り、中東の

戦争が片づいて初めて、イラクが平和を追求せねばならない。

戦争終結、これを最重点課題とす

るべきなのである。なぜなら、この紛

争が片づいて初めて、イラクが平和を追求し出すことになるからである。

その中には、米国や他の国との協力

が含まれることになる。また、紛

争が片づいて初めて、イラクが、ガ

ルフでの責任をとる役割を果たす國

になるということである。

この戦争を止めない限り、中東の

戦争が片づいて初めて、イラクが平和を追求せねばならない。

戦争終結、これを最重点課題とす

るべきなのである。なぜなら、この紛

争が片づいて初めて、イラクが平和を追求し出すことになるからである。

その中には、米国や他の国との協力

が含まれることになる。また、紛

争が片づいて初めて、イラクが、ガ

ルフでの責任をとる役割を果たす國

になるということである。

この戦争を止めない限り、中東の

戦争が片づいて初めて、イラクが平和を追求せねばならない。

戦争終結、これを最重点課題とす

るべきなのである。なぜなら、この紛

争が片づいて初めて、イラクが平和を追求し出すことになるからである。

その中には、米国や他の国との協力

が含まれることになる。また、紛

争が片づいて初めて、イラクが、ガ

ルフでの責任をとる役割を果たす國

になるということである。

この戦争を止めない限り、中東の

戦争が片づいて初めて、イラクが平和を追求せねばならない。

戦争終結、これを最重点課題とす

るべきなのである。なぜなら、この紛

争が片づいて初めて、イラクが平和を追求し出すことになるからである。

その中には、米国や他の国との協力

が含まれることになる。また、紛

争が片づいて初めて、イラクが、ガ

ルフでの責任をとる役割を果たす國

になるということである。

この戦争を止めない限り、中東の

戦争が片づいて初めて、イラクが平和を追求せねばならない。

戦争終結、これを最重点課題とす

るべきなのである。なぜなら、この紛

争が片づいて初めて、イラクが平和を追求し出すことになるからである。

その中には、米国や他の国との協力

が含まれることになる。また、紛

争が片づいて初めて、イラクが、ガ

ルフでの責任をとる役割を果たす國

になるということである。

この戦争を止めない限り、中東の

戦争が片づいて初めて、イラクが平和を追求せねばならない。

戦争終結、これを最重点課題とす

るべきなのである。なぜなら、この紛

争が片づいて初めて、イラクが平和を追求し出すことになるからである。

その中には、米国や他の国との協力

が含まれることになる。また、紛

争が片づいて初めて、イラクが、ガ

ルフでの責任をとる役割を果たす國

になるということである。

この戦争を止めない限り、中東の

ていたことを確認した。日本外務省に捕えられている人質釈放にむけ、イランの影響力行使を、中曾根が私信で要請した事実を認めてはいる。

しかし、レーガンが言っているのは、米兵器の部品引き渡しに日本が一役を買っているということなのである。

中曾根は、貫して、軍隊再建をうたって平和憲法違反を行ってきた。

「自衛隊」と銘うつ日本軍は、今や二五万の軍隊なのである。さらに、武器禁輸三原則をもふみにじてきた中曾根である。曰く「部品は武器には非ず」。

民族自決、解放という当然、合法の権利のために闘う中東の進歩的、民族主義的政府、および人民の闘いに対する日帝の介入を許さないぞ。

また、アジア・太平洋における日帝の恫喝、経済/テクノロジー的支配をも、許さないぞ。

民族自決、解放という當然、合法の権利のために闘う中東の進歩的、民族主義的政府、および人民の闘いに対する日帝の介入を許さないぞ。

また、アジア・太平洋における日帝の恫喝、経済/テクノロジー的支配をも、許さないぞ。

民族自決、解放という當然、合法の権利のために闘う中東の進歩的、民族主義的政府、および人民の闘いに対する日帝の介入を許さないぞ。

また、アジア・太平洋における日帝の恫喝、経済/テクノロジー的支配をも、許さないぞ。

民族自決、解放という當然、合法の権利のために闘う中東の進歩的、民族主義的政府、および人民の闘いに対する日帝の介入を許さないぞ。

また、アジア・太平洋における日帝の恫喝、経済/テクノロジー的支配をも、許さないぞ。

民族自決、解放という當然、合法の権利のために闘う中東の進歩的、民族主義的政府、および人民の闘いに対する日帝の介入を許さないぞ。

## 激動の中東 ドキュメント

### 二、シリア航空乗組員の手荷物検査強化

シリアに感謝表明。  
カッダム副大統領、ダマスカスで西独TVとインタビューア、「仏政府の中東政策展開が、今回の人民質釈放につながったもの」と語る。

仏人人質二名、ダマスカスにて釈放される。仏政府、三名の特使を派遣して、身柄をひきとると共に、

レバノンに感謝表明。  
レバノン人質二名、ダマスカスにて釈放される。仏政府、三名の特使を派遣して、身柄をひきとると共に、

レバノンに感謝表明。  
カッダム副大統領、ダマスカスで西独TVとインタビューア、「仏

政治の決定は尊重するが、シリア政府が直接関与したとする非難には同調しない」と発表。

アマル対パレスチナ勢力の矛盾アマルは、「三週間前に一〇〇人以上のパレスチナ人捕虜釈放了」

と発表。  
アブル・ジハド(UAEでのインタビュート)、「パレスチナ人戦士は、武器を手に前線復帰せり」

EC外相ロンドン会議で、シリア制裁措置採択。

イ、武器売却停止  
ロ、シリア高官の公式訪問ボイコット。対シリア訪問しない

ハ、シリア外交官の行動規制

リビアへの制裁に対し、「EC諸国からの武器輸入しない」とする

逆ボイコット。さらに、他のアラブ諸国に対しても、リビアに続くようアピール。

イスラエル  
・ペレス外相、「西岸開発五カ年計画」に言及し、「この地域への新活力導入は、良いこと」と語る(訪米中)。

・イスラエル戦争相ラビン、「米国政府の許可なく武器取引きしたことはない」

・イスラエル、八〇〇人の武器商人のライセンス点検、再発給にかかる。武器販売取締り強化。

・レーガン、議会で、秘密交渉の事実を認める。

・イスラエル戦争相ラビン、「米国政府の調整があったと考へて、取引にのり出しただけ。iran相

裁判待期中の英武器商人も「米政府の合意があり、米イスラエルの調整があつたと考へて、取引にのり出しただけ。iran相

・ペレス(コネクション)で

- エジプト
- ・アブ・ガザーラ国防相、訪米。米財務長官のベーカーと対米軍事負債問題について討議。
- 一月一九日(水)
- レバノン
- ・中央銀行ビルに手榴弾撃ちこまる。レバノン・ポンド、すでに七二%も対ドル交換比率が下がった。
- ・ジョルジュ・イブラヒム・アブダラア、ストラスブルグの米領事暗殺未遂で追起訴さる。
- シリアル  
・アサド大統領、第四〇回IUS(国際学生連盟)にメッセージ。
- 米帝の対イラン秘密交渉

「現在の対米輸出は、輸出総額の三四%。もっと拡大したい」  
米商務省代表  
「この方式を他の国々との関係の模範にしたい。イスラエルが実行している民主主義は、他の国々の模範になろう」  
・ラビン、北欧旅行（フィンランド入り）。  
「イラン、トルコ、イスラエル三国は、反シャー革命前は、反テロ枢軸の役割を果たしてきている。イスラエルは、UNIFILにも参加し、レバノン南部安定に努力する意味がある」  
一一月二〇日（木）  
反シリヤ・キャンペーン  
・サッチャー、英外相、訪仏。シリアーブの反テロ共同内容調査のた

トルコ

- 本日から欧州評議会の議長国に。
- ただし、キプロスは、これに反対し、欧州評議会からのトルコ追放を要求するのみ。
- 一月二一日（金）
- レバノン
- 南部キャンプ戦再々燃二日め。
- アミン、独立四十三周年記念日演説で、「イスラムークリスチヤンの対話」再開をアピール。
- 米帝の対イラン秘密交渉
- レーガン、ミース司法長官に、調査指示。
- 米両院も、各種調査委員会活動を始める。上院の調査委員会は、CIA長官を証人喚問し、事情聴取

●民主イエメン（アデン）のアッタ  
ス大統領、ダマスカスへ。アサド  
大統領と会談。

ヨルダン

・フセイン国王、本日からエジプト  
訪問（二日間）。

米帝の対イラン秘密交渉

●イスラエルが米政府の許可、了承を  
得てイランに武器を売っていたの  
か否かが、問題にされ始める。  
・ワインバーガー、レーガンの「義  
意」を肯定す。

- ・アサド大統領、アラブ連盟会長、アルジエリア外相と会談。
- ・キプロス大統領、アテネ入り。独立キプロス北部では、トルコ国民党が参入して、政局が複雑化する。
- ・西岸のナジヤハ大政治学教授、大記念式典。
- ・イスラエル

- ・レホガン、T V 記者会見席上、「自分の責任。過ちであった」と認め  
る。
- ・米上院、C I A長官喚問し、事情  
聴取予定（一一月二一日）。
- ・米一イスラエル自由貿易協定調印  
一周年。
- ・イスラエル

- ・トルコ、「イスタンブールのシナゴーグ闘争に、シリア領事が関連している」と発表。
- イスラエル
- ・ヘルツォグ大統領、アジア旅行帰路、予定になかったスリランカ訪問を行った。
- 米帝の対イラン秘密交渉
- ・ミース米司法長官、イランからの

・ヘルツォグ大統領、アジア、太平洋訪問（一八日間）から帰国。「新しいアジア政策が必要」と語る。ガルフ戦・イラン軍、イラク三都市を爆撃。ニカラグア  
・ヘラルド・トリビューン発表によると、ニカラグアの反政府ゲリラ組織で最大のNDF（ニカラグア

- ・サウジアラビア、ムバラクと会見。
- ・アブドラ皇太子、突然訪英（一七日には招待じた英皇太子夫妻が、サウジ着予定）。
- ・伊国防相、武器売却のため、本日、リヤド入り。
- 一一月一六日（日）  
シリアのアサド政権樹立十六周年記念
- レバノン
- ・南部
- ・第二回労働総同盟大会で、アサド大統領説。
- ・イスラエル空軍が、サイダ爆撃。
- ・シリアル
- 英帝
- ・サツチャヤー訪米し、レーغانと会見。

- ・ イラン国連大使、一月一三日のレーガン発言に言及。
- ①米のイラン政策は積極的な微候がみえる。  
②ガルフ戦で、イランは勝利するだろう。
- ・ シュルツ
- 「この件で受けた報告は断片的なものでしかない」
- ・ ワインバーガー
- 「これ以上の、イランへの武器引き渡しに反対」
- ・ 国家安全問題顧問
- 「国家安全委員会がイニシアチブとって展開してきた。國務・国防両省は、よく知らなかつたはず」  
ガルフ戦

(2) 南アジアをテロリスト出撃拠点にさせない。  
問題を検討す。

一月一七日（月）

レバノン

・元外相サーケム、ワシントン訪問終了し、バチカンへ。米帝とシリアーレバノンサミット問題につき調整したと言われる。内容公表されず。

・レバノン・ポンド、一ドル／六〇ポンドに下る（八五年末は、一ドル／一八ポンド）。

反シリリア・キャンペーン

・独一アラブ友好協会爆破事件（三月二九日）裁判、西ベルリンで、本日から。

シリリア

- ・エルサレムの狂信派ユダヤ教徒によるパレスチナ人攻撃を、シャロン商工相が讃える。
- ・シャー時代に借りた対イラン一二億ドルローンのうち三三〇〇万ドル返済に調印了を発表。
- ・ルノー総支配人、自宅近くで射殺される。
- 一月一八日（火）
- レバノン
- ・南部レジスタンス「SLA」拠点、三カ所を攻撃。
- ・また、イスラエル内ヘロケット砲攻撃。
- ・イスラエルは、タンク、装甲車をくり出して、レバノン南部の村々を攻撃、破壊す。

造船所に部品供給させたい意向。  
一〇年計画。

談。共同声明発表。主旨は、  
① 英の独自の核戦力支持。  
② 通常兵力、バランスも(ソ連と)  
交渉する。

- ・イラク空軍、六日間に三回めのバ  
ンドラ・ホメイニ石化工場爆撃。

- 東独の社会主義統一党政治局員、ダマスカス訪問、アサド大統領と会見。

・イロッソのハースン・フォスに、三〇年の実刑判決。  
U A E

・U A E大統領のザイード・ビン・スルタン、モロッコを非公式訪問。  
インドで南アジア協力機構会議。  
目的は、  
①二国間紛争はもち出さず、地域問題を検討す。  
②南アジアをテロリスト出撃拠点にさせない。

一月一七日（月）  
レバノン  
・元外相サーレム、ワシントン訪問終了し、バチカンへ。米帝とシリアーバノンサミット問題につき調整したと言われる。内容公表されず。

一月一七日（月）  
レバノン・ポンド、一ドル／六〇ポンドに下る（八五年末は、一ドル／一八ポンド）。  
反シリリア・キャンペーン  
・獨一アラブ友好協会爆破事件（三月二九日）裁判、西ベルリンで、本日から。

一月一八日（火）  
レバノン  
・南部レジスタンス  
「S L A」拠点、三カ所を攻撃。  
また、イスラエル内ヘロケット砲攻撃。  
イスラエルは、タンク、装甲車をくり出して、レバノン南部の村々を攻撃、破壊す。

一月一九日（水）  
仏  
・シャー時代に借りた対イラン一〇億ドルローンのうち三三〇〇万ドナル返済に調印了を発表。

一月二〇日（木）  
・エルサレムの狂信派ユダヤ教徒によるパレスチナ人攻撃を、シャロン商工相が讃える。

ガルフ戦  
・アマルのベリ氏、ダマスカス訪問入り。  
アサド大統領と会談。

米帝の対イラク秘密交渉  
・エラムのアジズ外相、クウェート入り。  
イラン太子夫妻、サウジ訪問。

相、ダマスカス訪問。  
・アマルのベリ氏、ダマスカス訪問入り。  
アサド大統領と会談。

トルコ  
・トルコ、「イスタンブルのシナゴーグ闘争に、シリア領事が関連している」と発表。

イスラエル  
・ヘルツォグ大統領、アジア旅行帰路、予定になかったスリランカ訪問を行う。

米帝の対イラン秘密交渉  
・ミース米司法長官、イランからの兵器代金がニカラグア反政府軍へ横流されていたらしいと、公表（以来、横流し問題も焦点になる）。トルコ  
・本日から欧州評議会の議長国に。ただし、キプロスは、これに反対し、欧州評議会からのトルコ追放を要求するみみみ。

一月二一日（金）  
レバノン  
・南部キャンプ戦再々燃二日め。  
アミン、独立四十三周年記念日演説で、「イスラーム・クリスチヤンの対話」再開をアピール。

米帝の対イラン秘密交渉  
・レーガン、ミース司法長官に、調査指示。

米両院も、各種調査委員会活動を始める。上院の調査委員会は、C I A長官を証人喚問し、事情聴取。

一月二二日（土）  
シリア  
・民主イエメン（アデン）のアッタヨルダン  
・フセイン国王、本日からエジプト大統領と会談。

米帝の対イラン秘密交渉  
・イスラエルが米政府の許可、了承を得てイランに武器を売っていたのか否かが、問題にされ始める。  
・ワインバーガー、レーガンの「善意」を肯定す。

- 一月二六日（水）

  - ・イスラエル、サイダ近郊の二キヤンプ（アイネ・ヘルワ、ミーラー）を爆撃する。
  - ・南部の「キャンプ戦」および戦略拠点マグドゥシェ攻防戦、ベイルートのキャンプへ戦線拡大す。反アラファト派の中で、サイカとPFLP+GCAとアブ・ムサ派の三派のみが参戦拒否。
  - U N I F I L
  - 国連スポーツマンによると、UNIFILの从軍部隊は、現在の一四〇〇人から五二〇人に減少する。一連の再配備過程（UNIFIL縮小）の動き。
  - P S Pのジュンブラット氏、「これまで以上戦闘拡大するなら、我々はアマルと共に闘う」と声明。
  - 政府筋によると、「〇月に撤収した米大使館員と家族のうち三〇人程度が、先週、ベイルートにもどつたとのこと。
  - シリア
  - ・サウジ内相、ダマスカス訪問。
  - 米帝の対イラン秘密交渉
  - ・イスラエルの首相、外相、戦争相が、対イラン秘密武器輸送の事実を認めるも、「代金は、イスラ

- ガルフ反動
- ・サウジアラビアーバーレーンを結ぶ「ファハド国王大橋」、除幕式立し、日本のディーラーとの直接取引を行うと発表。
- 一月二七日（木）
- レバノン
- ・アマルに捕獲されているイスラエルから捜査依頼あつたが、「行方がつきとめられない」と発表。
- 国際赤十字社、「イスラエルから捜査依頼あつたが、「行方がつきとめられない」と発表。
- ル・パイロット問題。
- 反シリア・キャンペーンへの反撃
- ・リビアのジャルード少佐、「シリアへの軍事攻撃は、アラブ革命勢力の反撃に合うことになろう」と牽制。
- 米帝の対イラン秘密交渉
- ・駐伊イラン大使、本国召還。伊のTVでホメイニ師を米との秘密交渉問題で戯画化したのに抗議。イランは、伊外交官三名を、同問題の故に、追放処分。
- ニカラグア反政府ゲリラへの資金横流しには関連していないと言いつ張る。

- ・米帝は、イスラエルの余剰航空機、レバノン侵略戦で捕獲した兵器を二年間イランに売ったとのこと。
- ・軍事法廷、八五年、公海上の民間船から運行したパレスチナ・コンソーンド（ファタハの第一七部隊）とラファト議長の護衛隊）を、「PLOメンバーである」からとして三年半の実刑判決下す。
- ・キヤンプ戦
- 一一日二八日（金）  
レバノン
- 過去数カ月に、PLO戦士五〇〇人がレバノンにもどっていたという報道。
- アマル筋は、西ベイルート郊外のアマル地区とレバノン南部を切断するため、PLOが攻撃をかけていると、PLOを非難。南部のマグドウシエ攻防戦による死者、二〇〇名前後。ベイルートのキヤンプ戦、停戦実行されず。
- ・米帝の対イラン秘密交渉
- ・米FBI、イスラエル高官からの事情聴取予定を発表（キムヒ元外

- ・元イラン首相のバニ・サドル氏、パリで記者会見。ホメイニ政府を批判。とくに、イスラエル経由での武器購入した点。
- ガルフ戦
- ・イラク外相、イスラム諸国会議に、イラン追放を訴える。
- ・国連総長報告によると、八六年度一月二五日現在、ガルフ戦による被害状況は、（八五年度）  
攻撃を受けた商船 九七隻（六一隻）  
攻撃による死亡（海員） 三四人（五人）  
攻撃による負傷者 四〇人（二〇人）  
攻撃による行方不明 一〇人（二人）
- イスラエル
- ・バヌヌ技師問題
- エルサレム地裁、同技師をスペイ行為、利敵行為容疑で裁判にかけることを決定。
- ・ペレス外相、スウェーデン訪問。「八七年一月予定のイスラム諸国機構会議後、中東和平交渉に大きな変化があるだろう」と語る。

- ・バグダッド市内で爆弾爆破。
  - ・エルサレムで元ヨルダン国防相ヌセイベ、死亡。
  - 英帝
  - ・二五日（火）から一二月二日まで英オマーン合同演習。英側は、四七五〇人の三軍（陸、海、空）を参加させるもの。
  - ・英国防相、アンマン入り。（オマーンでの合同演習視察後）ヨルダンへのトルネード戦闘機四〇機壳りこみのためとされる。
  - 一一月二三日（日）
  - 米帝の対イラン秘密交渉問題
  - ・ヨルダン＝エジプト首脳会談了。両首脳、レーガンに警告。
  - フセイン国王
  - 「アラブにとつては侮辱であり、アラブの利益にそわない」ムバラク
  - 「米－アラブ関係を脅かすものである。この見解は、すでに書簡でレーガンに伝えた」
  - ・米下院議員、ヨルダン訪問。

- 騒擾は、望ましくない。秩序回復が大切」とアピール。  
・ ヌセイベ葬儀に四〇〇〇人以上が参列。パレスチナ人青年が、愛国公的に集まれる時を得ては、愛国スローガンを唱える。
- 日帝  
（編注：ヌセイベ自身は、親ヨルダン派。ただし、パレスチナ人は、スローガンを唱える。）
- エジプト北部のアシウト発電所建設に、三菱重工率いるコンソーシウムが協力合意調印。  
総工費一億五〇〇〇万ドルのうち、約三五〇〇万ドルを日本側がソフト・ローンで受けもち、一九九〇年二月に完成させる計画。（米のベクテル社は、受注戦に敗れた。）
- 一月二四日（月）  
レバノン  
・ キャンプ戦  
サイダ近郊の戦略拠点マグドゥンエをパレスチナ側が攻略す。  
・ レバノン系サウジ実業家のハリリ

- ・コシガ大統領、伊大統領として、初めてのイスラエル公式訪問予定を発表。また、来週には、伊内相と対テロ対策協議のため、イスラエル入り予定。
- 一月二五日（火）  
レバノン
- ・「キャンプ戦」調停努力のため、リビアのジャルード少佐、シリアル入り。アサド大統領、カツダム元大統領と会談。
- 国連
- ・ゴラン高原のUNDF（国連兵士引離し監視軍）の駐留、六ヶ月延長を安保理で全会一致。八七年二月三一日までの期限（現在、オーストリア、カナダ、フィンランド、ボーランド四カ国で総計一三〇人の部隊）。
- ・ヨルダン—PLOの早期和解へ石油相、農林相とも会見。  
ヨルダン・アラブ経済企画相会談開催。

- ・米帝の対イラン秘密交渉
- ・法務省調査、スタート。
- ・米大統領国家安全問題顧問ポインテクスター提督辞任。同提督補佐官ノース海兵隊大佐解任（「横流し問題」の責任とらされたのか？）。
- ・キッシンジャーのコメントは、「対イラン関係改善は戦略的布石なるも、兵器引き渡しは、明らかにミスなり」
- ・ガルフ戦
- ・イラク、イラン、イラク北部の都市爆撃を発表。
- ・イラク戦闘機が、給油のため、サウジに緊急着陸。同機は、昨日イランの二都市爆撃し、民間人二〇〇人以上を殺した。
- ・対エジプト援助（八七一八九年。計二億四三〇〇万ドル。うち九三〇〇万ドルは援助、残りはローン）を決定。

- ・ サウジアラビア  
　　一月二日)にイラク支援したアラブ国に対し、ミサイル攻撃をかけると語る。
  - ・ 日米安保——琵琶湖86演習
  - ・ 西日本初の日米共同実動演習、滋賀県でスタート。三泊四日。日米実動部隊、約六三〇人で。
  - ・ 一二月二日(火)レバノン・経済
  - ・ 通貨下落抗議の全国ゼネスト。ベイルート空港国際線も閉鎖される(この五カ月に二回め)。
  - ・ キャンプ戦停戦へ向けた動き
  - ・ サウジのファハド国王、キャンプ戦停戦を呼びかける。レバノン当局が即時兵力引離し、パレスチナキャンプ防衛、「侵略者共」の武装解除に責任持つよう訴えると共に、全アラブ国がパレスチナ人、およびパレスチナ人の権利を防衛するよう訴える。
  - ・ レーガン、三人委員会を任命し、米帝の対イラン秘密交渉

- ・イスラエル、米法務省からの調査協力要請を受諾。イスラエル国会では、イランへの武器売却は、戦略上疑問視する声あり。
- ・ガルフ戦
- ・昨日のイラン首相の警告に対し、「ガルフ諸国をイランによる報復から防衛する」と、イラク空軍司令官が反論。
- ・一二月三日（水）  
米帝の対イラン秘密交渉  
・米上院情報特別委員会聴聞会で、ポイントデクスター前大統領補佐官が証言拒否。
- ・上下両院で別個の調査特別委員会設置を決定。
- ・レバノンのファランジ党党首、ワシントンで記者会見し、「米政府が極秘に対イラン武器売却を行つたことは、テロリズムおよびテロル支援国家を勇気づけることにならうし、穩健な中道諸国に対しても政策ではない」とレーガン批判
- ・エジプトのムバラク大統領、半官紙アル・アハラムとのインタヴューで、米帝が「中東における政治

国連の信用をおどしている」と批判・総会で、UNRW(A(パレスチナ難民救済組織)の業務(一九五〇年から開始)を三年間延長する決定下す(一九九〇年六月三〇日まで。イスラエル一国のみが、棄権票)。

さらに、一九六七年戦争でイスラエルが占領した地域に住む住民の原住居への帰還権を再確認する決議採択。および、被占領地の住民に対して、「戦時下的市民防衛取り決め」を守るよう、イスラエルに要求し、イスラエルによる占領地併合弾劾決議も採択。

- ・南部ギヤンブ戦  
イスラエル艦が、サイダ市、マグドウシェ近辺を艦砲射撃す。
- ・反シリア・キャンペーン  
イタリア政府、対シリア武器輸出全面禁止緊急法令承認。
- ・エジプト  
検事総長、」「イスラム聖戦機構」の三〇人（うち四人が陸軍将校）を逮捕し、三人の取調べがあつたと発表。反政府クーデター未遂容疑。
- ・被占領地  
観光・民間航空相、ヨルダンとの合弁会社設立合意に調印（ヨルダントンのアカバ湾の観光開発）。
- ・西岸、ビール・ゼイト大近くで、軍が学生に発砲。パレスチナ人学生二名が射殺さる（以来、反イスラエル暴動状況）。
- ・アルジェリア  
一二月五日（金）  
レバノン  
・キャンプ戦  
アマルのベリ氏、PNSF双方がイラン停戦案を守るよう、自軍に指令。

- PFLP-GCのジブリ議長、「停戦の条項規定がまだづめられていな」と語る。

米帝の対イラン秘密交渉

  - イスラエル政府スポーツマン  
「米政府の要請受けて、イランへの兵器完却を行つたが、代金が反ニカラグア政府ダリラへ渡った件については知らない」
  - イスラエル
  - 元駐米イスラエル大使デニヒ、訪米。
  - アテネ紙が、レーガンが明らかにした額の一〇倍の対イラン兵器完却があったこと、イスラム聖戦機構とも米人質釈放のために二〇〇〇万ドル支払う交渉をしていた

- ・ レーガン、タイム誌とのインタヴューで、マスクの「騒ぎすぎ」を非難し、「自分はまちがっていない」と強弁。
- ・ サウジ億万長者カショギジ氏も、武器売却に一役買っていたことが明らかにされる。
- ・ シヤミル政府、五人の調停委員会によるタバ紛争解決を正式に了承。シャロン商工相は、PLOのカイロ事務所閉鎖要求を出していたが否決される。
- ・ バール・レフ警察相、テロル退治に出発。

- び与党的の祖国党との統一を決定。  
これで祖国党は四〇〇議席中二五七議席を獲得する（FDP議席は二〇だつた）。
- レバノン
- キャンプ戦
- イ、サイダ市、マグドウシエ攻防戦抗議のゼネ・スト。
- 口、ミリシア、病院筋によると、  
(一〇月度)
- 一一月度の死者 五〇〇人（一一七人）うち、「キャンプ戦」で死亡した者が四六〇人、イスラエルの爆撃で、または「SLA」に殺された者が一八人とのこと。  
レバノン内戦停戦へむけた動き、アルジエリアのシャドリ大統領、

- ・米上院外交委員会も調査会をスタート。マクファーレンからの事情聴取から。
- ・ニューヨーク連邦地裁で、対イラノン武器密輸事件公判（「バーミュダ・コネクション」）で、被告の一人が政府高官喚問を要求（米英、イスラエル武器商人一七人が被告。二〇億ドルにのぼる対イラント武器禁輸違反の疑い）。
- ・また、同裁判担当判事が、同事件の証拠書類が紛失していると非難す。

イスラエル

・西岸ナブルス市近くのバラタ・キヤンプで、投石したパレスチナ少年（一四歳）をイスラエル軍が射殺。アシュケロン刑務所では、ビル・ゼイト大での学生二名射殺に抗議し、暴動。

米帝の対iran秘密交渉

・ワシントン・ポスト紙によると、FBI長官は、iran・ニカラグア秘密工作極秘文書をミース司法長官から受けたのは、ニカラグアへの資金横流が公表され

から四日後となると、暴露。

・ホワイト・ハウスの人事異動

スピーカー報道官、八七年二月一日からメリル・リンチ社に転出する」と発表。

・iranのラフサンジャニ国会議長、米との取引の事実を認め、三〇〇〇万ドル支払つなど発言。

・ロンドンでEC首脳会議。

米帝

一段階参加の米、欧民間企業七グループ（五一社）に総額一四〇〇万ドルの契約発注したと発表。

ガルフ戦

・ワインバーガー、SDI研究の第一二月六日（土）

レバノン

米帝の対iran秘密交渉

・ワシントン・ポスト紙によると、FBI長官は、iran・ニカラグ

ア秘密工作極秘文書をミース司法長官から受けたのは、ニカラ

グアへの資金横流が公表され

から四日後となると、暴露。

・ホワイト・ハウスの人事異動

スピーカー報道官、八七年二月一日からメリル・リンチ社に転出する」と発表。

米帝

一段階参加の米、欧民間企業七グループ（五一社）に総額一四〇〇万ドルの契約発注したと発表。

・イラン国会議長、「八七年三月前

に、大攻勢をかけるだろう」と語る。

ヤンプで、投石したパレスチナ少年（一四歳）をイスラエル軍が射殺。アシュケロン刑務所では、ビル・ゼイト大での学生二名射殺に抗議し、暴動。

米帝の対iran秘密交渉

・ワシントン・ポスト紙によると、FBI長官は、iran・ニカラグ

ア秘密工作極秘文書をミース司法長官から受けたのは、ニカラ

グアへの資金横流が公表され

から四日後となると、暴露。

・ホワイト・ハウスの人事異動

スピーカー報道官、八七年二月一日からメリル・リンチ社に転出する」と発表。

米帝

一段階参加の米、欧民間企業七グループ（五一社）に総額一四〇〇万ドルの契約発注したと発表。

ガルフ戦

・ワインバーガー、SDI研究の第一二月七日（日）

レバノン

米帝の対iran秘密交渉

・ワシントン・ポスト紙によると、FBI長官は、iran・ニカラグ

ア秘密工作極秘文書をミース司法長官から受けたのは、ニカラ

グアへの資金横流が公表され

から四日後となると、暴露。

・ホワイト・ハウスの人事異動

スピーカー報道官、八七年二月一日からメリル・リンチ社に転出する」と発表。

米帝

一段階参加の米、欧民間企業七グループ（五一社）に総額一四〇〇万ドルの契約発注したと発表。

・イラン国会議長、「八七年三月前

「低レベルの対米対話継続の準備あり」と語る。

ヤンプで、投石したパレスチナ少年（一四歳）をイスラエル軍が射殺。アシュケロン刑務所では、ビル・ゼイト大での学生二名射殺に抗議し、暴動。

米帝の対iran秘密交渉

・ワシントン・ポスト紙によると、FBI長官は、iran・ニカラグ

ア秘密工作極秘文書をミース司法長官から受けたのは、ニカラ

グアへの資金横流が公表され

から四日後となると、暴露。

・ホワイト・ハウスの人事異動

スピーカー報道官、八七年二月一日からメリル・リンチ社に転出する」と発表。

米帝

一段階参加の米、欧民間企業七グループ（五一社）に総額一四〇〇万ドルの契約発注したと発表。

ガルフ戦

・ワインバーガー、SDI研究の第一二月七日（日）

レバノン

米帝の対iran秘密交渉

・ワシントン・ポスト紙によると、FBI長官は、iran・ニカラグ

ア秘密工作極秘文書をミース司法長官から受けたのは、ニカラ

グアへの資金横流が公表され

から四日後となると、暴露。

・ホワイト・ハウスの人事異動

スピーカー報道官、八七年二月一日からメリル・リンチ社に転出する」と発表。

米帝

一段階参加の米、欧民間企業七グループ（五一社）に総額一四〇〇万ドルの契約発注したと発表。

・イラン国会議長、「八七年三月前

ウシェからひかず。

ヤンプで、投石したパレスチナ少年（一四歳）をイスラエル軍が射殺。アシュケロン刑務所では、ビル・ゼイト大での学生二名射殺に抗議し、暴動。

米帝の対iran秘密交渉

・ワシントン・ポスト紙によると、FBI長官は、iran・ニカラグ

ア秘密工作極秘文書をミース司法長官から受けたのは、ニカラ

グアへの資金横流が公表され

から四日後となると、暴露。

・ホワイト・ハウスの人事異動

スピーカー報道官、八七年二月一日からメリル・リンチ社に転出する」と発表。

米帝

一段階参加の米、欧民間企業七グループ（五一社）に総額一四〇〇万ドルの契約発注したと発表。

ガルフ戦

・ワインバーガー、SDI研究の第一二月七日（日）

レバノン

米帝の対iran秘密交渉

・ワシントン・ポスト紙によると、FBI長官は、iran・ニカラグ

ア秘密工作極秘文書をミース司法長官から受けたのは、ニカラ

グアへの資金横流が公表され

から四日後となると、暴露。

・ホワイト・ハウスの人事異動

スピーカー報道官、八七年二月一日からメリル・リンチ社に転出する」と発表。

米帝

一段階参加の米、欧民間企業七グループ（五一社）に総額一四〇〇万ドルの契約発注したと発表。

・イラン国会議長、「八七年三月前

「低レベルの対米対話継続の準備あり」と語る。

ヤンプで、投石したパレスチナ少年（一四歳）をイスラエル軍が射殺。アシュケロン刑務所では、ビル・ゼイト大での学生二名射殺に抗議し、暴動。

米帝の対iran秘密交渉

・ワシントン・ポスト紙によると、FBI長官は、iran・ニカラグ

ア秘密工作極秘文書をミース司法長官から受けたのは、ニカラ

グアへの資金横流が公表され

から四日後となると、暴露。

・ホワイト・ハウスの人事異動

スピーカー報道官、八七年二月一日からメリル・リンチ社に転出する」と発表。

米帝

一段階参加の米、欧民間企業七グループ（五一社）に総額一四〇〇万ドルの契約発注したと発表。

ガルフ戦

・ワインバーガー、SDI研究の第一二月七日（日）

レバノン

米帝の対iran秘密交渉

・ワシントン・ポスト紙によると、FBI長官は、iran・ニカラグ

ア秘密工作極秘文書をミース司法長官から受けたのは、ニカラ

グアへの資金横流が公表され

から四日後となると、暴露。

・ホワイト・ハウスの人事異動

スピーカー報道官、八七年二月一日からメリル・リンチ社に転出する」と発表。

米帝

一段階参加の米、欧民間企業七グループ（五一社）に総額一四〇〇万ドルの契約発注したと発表。

・イラン国会議長、「八七年三月前